

文化財学習会

ふるさと探訪

テーマ 高田から池戸へ長尾線沿線を歩く

講師 千葉 幸伸（三木町文化財保護審議会委員）

平成22年12月19日（日）

共催 高松市歴史民俗協会
高松市教育委員会

1 金崎神社 祭神 小碓命（ヤマトタケル） おうすのみこと

金崎神社は旧前田八幡神社の境内摂社で、古くは王子権現とも称され、芳尾山の南麓亀田町東川上にあります。承平年間（931～938）の創祀と言われ、御神体は皇子神像で中国風です。昭和52年（1977）に社殿を解体修理した際、古い幟のぼりおよび文書3通が発見されました。天保13年（1842）当時は、王子大権現と呼ばれていたことを示しています。裏山の芳尾山の頂上は三木郡と山田郡（現三木町と高松市）の境になっています。

おうすのみこと
【小碓命】 景行天皇の皇子で仲哀天皇の父とされる人物です。

2 高尾樋門

新川が東から西に流れて、三木町から高松市に入る所にあります。洪水時の逆流防止の



金 崎 神 社

ための樋門です。この樋門を閉めても、南のたくさん水路から流れてくる水で、三木町池戸地区は昔から洪水の害にあつてきました。

水の出やすい場所に郡の境（現在の三木町と高松市の境）があるということは、郡が設置された古代以来の問題であることを示しています。池戸はもと「池辺」と書かれていたことから水貯まった自然地形が想像され
ます。

3 池戸八幡神社

祭神 誉田別尊ほんだわけのみこと（応神天皇）など八幡3神

池戸八幡神社は、「池戸の大宮の八幡さん」と呼ばれ、香川大学医学部の南東にある男井間池の西側に鎮座しています。鳥居を通り石段を上がると、参道にはずらりと石灯籠が並び壮観です。道を真っ直ぐ進むと突き当たりに社殿があります。本殿は三間二面の流造で屋根は桧皮葺、拝殿は五間二面の入母屋造で千鳥破風向拝付きで屋根は本瓦葺き、本殿裏かえる股細部にはよく近世初期の様式を残しています。



高尾樋門

陽成天皇の元慶8年（884）理源大師（聖宝）によって創建されたといわれていますが、確かではありません。亀田八幡宮とも呼ばれ、また生延大宮いきのびとも言われ、1郷1社の神社であったと伝えられています。永正3年（1506）池戸中城の城主山地志摩守が社殿を修繕したと伝えられ、その後天正11年（1583）長曾我部元親の兵火にかかり、社殿は焼失してしまいました。慶長7年（1602）松原万助義成が生駒家に申請して再興したとされ、このことは慶長7年の棟札銘から知ることができます。境内にある樟の木は寛永2年（1625）に万助の子玄雪しきゆきが植樹したものと伝えられています。

また、境内には三木町が生んだ農業の先覚者奈良専二の胸像が建てられています。



池 戸 神 社

【松原万助・玄雪】

河内国（大阪府）古市郡壺井の住人多田五郎義時から出ています。天正8年（1580）万助義成は池戸に居を構えました。十河存保、生駒藩及び松平藩に仕え9世義勝の時より医業を営み現在にいたっています。敬神、崇祖の念厚く、玄雪は阿波三好氏の出で、万助の娘を妻として家を継ぎ、生駒氏の旗奉行（500石）として仕えました。生駒藩3代正俊から酒造業や製塩業の特権も与えられました。

【奈良 専二】

香川県三木町出身の篤農家で、農業指導者。群馬県の船津伝次平、奈良県の中村直三とともに「明治の三大老農」の一人として知られています。

文政5年（1822）、讃岐国三木郡池戸村（現在香川県木田郡三木町大字池戸）の農家、奈良佐四郎の長男として生まれ、幼少のころから「農をもって国を興す」という大志を抱き、わずか8歳で運搬用のネコ車を発明するなど農機具の考案、さらにはイネの品種改良（奈良稻）など農業全般にわたる実地指導者として活



奈良 専二

躍しました。明治16年（1883）、60歳を過ぎて決意を新たに上京。以来、東京、千葉、茨城の各地で農業技術の研究を行うとともに、指導者としても活躍しました。

明治24年（1891）、秋田県仙北郡花館村（現・大仙市）に農業指導者として招聘され、ウサギの生産・養蚕・馬産を奨励、さらに納豆、豆腐の製法も教え、乾田での馬耕も指導、着々と成果をあげました。また、数々の農書を著しています。明治25年（1892）、秋田県南秋田郡川尻村（現・秋田市）で肺炎のため死亡しました。

4 池戸八幡神社1号墳

平成5年（1993）に測量調査により、三木町で始めて確認された前方後円墳です。固有の通称はなく古墳群に通番をつけて池戸八幡神社1号墳とされ神社参道西側の山林中に位置しています。北東方面に前方部を向け、円部が丘陵部最高所にあります。神社の北側には数か所円墳状の高まりがあり、池戸八幡神社裏古墳群と呼ばれています。

1号墳の後円部の径19×21m、高さ1.5mで、前方部の最大幅は7m、高さ1mを測り、墳丘全長は38mで、後円部に比べ前方部の幅が狭く虫眼鏡のようになっていくことから昔の鏡の形を例に挙げて柄鏡式の前方後円墳と呼ばれています。

北方から弥生土器壺棺の細片、須恵器片が少量検出されました。南方からは、柱穴が検

出されており、掘立柱建物跡、あるいは柵列跡の可能性が考えられます。

5 男井間池

(池の規模 堤長 290 m 提高 9・7 m 満水面積 32ヘクタール 貯水量 95・6万立方メートル 灌漑面積 188・4ヘクタール)

男井間池は昔「雄沼」と呼ばれたといいます。「男井間池之碑」には1,200年も前の築造と記されています。ため池の中ほどに残っている中堤と呼ばれる旧堤防の後から推測すると、造られた当時は今の半分足らずの規模であったようです。背後に谷川などを持たないため、水たまりの悪い池でした。江戸時代の池台帳によれば、井戸村わか和爾賀波神社近くの鴨部川に横井を設け、



男 井 間 池

そこから下高岡村・平木村・井上村などを通り、およそ長さ6,300間(11km)、井上村の観音関から300間(540m)を隔てて掛井手を作り導水していましたが、距離が長く勾配がゆるいため、漏水に悩まされ、池を満水させることができませんでした。そこで井上村の溝口恒八は、水源を近くの平木川(新川)に求め、7か村の庄屋に相談し、高松藩に願い出て天明5年(1785)1月に許可を得ました。その年の3月に開始した工事は順調にはかどり、11月に新しい掛井手を完成させ、恒八は功により年々米4石を与えられました。その後は大きい改修工事もなく過ぎていきましたが、昭和23年(1948)に至って新川の水を直接ポンプで揚水することでその万全を期することができるようになりました。

6 女井間池

(池の規模	堤長	268・0m	提高	3・7m	満
水面積	6・8ヘクタール	貯水量	12・9万立方メートル		
ト	灌漑面積	25・4ヘクタール)			

古くから男井間・女井間ならび称されてきた池です。女井間池の北、400mの所に奈良時代の始覚寺跡がありま



女井間池

す。両池とも池としての形が整ったのは近世初期であろうと思われます。男井間池・女井間池はともに三木町北部に降った雨水がいったん二ツ池にためられた後、再び寒国川かんくにとなつて流れ下るのを受けて溜めるようになっていました。

平成15年(2003)に男井間池、女井間池でオニバス(絶滅危惧Ⅰ類)の生育が確認されました。オニバスは特に三豊・丸亀平野に集中し、三木町はその東端にあたります。

水面に1mを越す葉を広げ、とげを纏まとった姿はややグロテスクですが、8月〜9月頃に白味を帯びた紫の可憐な花を咲かせます。およそ100万年前、瀬戸内が湖沼地帯であった頃の生き残りで、生きた化石と呼ばれています。



オニバス

7 始覚寺跡 三木町指定文化財 昭和60年3月23日指定

現在の始覚寺境内から西側一帯が、寺域と考えられ、古瓦が出土します。出土瓦の年代は白鳳期から平安時代に及んでいます。また国分寺、国分尼寺跡と同文様の瓦を出土するところから、官寺的色彩が強く感じられます。始覚寺跡地は北方へ高くなった南向き斜面

で、ここから三木町の平地部のほぼ全景を見ることができず。平成7年度に圃場整備に伴う試掘調査が県教委により行なわれ、築地、回廊跡と敷設の瓦窯跡が確認されました。南向きの丘陵上に立地する状況は国分尼寺の場合と似ています。現在の始覚寺本堂の前に塔の礎石（幅171cm、奥行き125cm、高さ55cmの花崗岩、中央部に直径80cmと38cmの二重の穴がある）が残っています。二重孔の塔心礎石は、香川県では他に開法寺跡、鴨麿寺跡に例があります。

8 始覚寺 本尊 木造観世音菩薩立像

この寺の創建についての記録はありませんが、発掘される古瓦には宇瓦のきかわら（軒平瓦）や鏡瓦あぶみかわら（軒丸瓦）など数種類あります。宇瓦の文様は偏向唐草文、丸瓦は蓮華単弁文等で、裏に布目があります。これらの瓦はいずれも白鳳期のもので、寺の創立年代もこの時代であったと推測されます。

寺は天正年中（1573～1592）に長宗我部の兵火にあ



い、焼失しましたが、寛文2年（1662）寺跡に観音堂と庵室が再建され、明治初年（1868）に護摩堂や鐘楼などを修繕し現在に至っています。

9 香川大学農学部

香川大学農学部の前身木田郡立農学校は、明治36年（1903）に乙種農林学校の設
立が認可され、池戸八幡神社の別当惠徳院えとくいんであった一角を仮校舎として開校しました。明
治38年（1905）香川県に移管し、香川県立農林学校と改称しました。その後、昭和
22年（1947）「香川県立農業専門学校」昭和25年（1950）「香川県立農科大学」
を経て昭和30年（1955）国立に移管し「香川大学農学部」の設置が実現しました。
それ以後、設置認可の条件を満たすべく努力が重ねられ、施設も整備が進み、昭和34年
（1959）移管が終了し、3学科19講座、入学定員80人の香川大学農学部として発
足しました。昭和43年（1968）には大学院農学研究科（修士課程）が設置されまし
た。

木田郡立農学校創立から数えて平成15年（2003）には100周年を迎え、多
くの指導者を輩出しました

【参考文献】

- 『香川県の地名』 1989年2月23日発行 樺平凡社
- 『香川県大百科事典』 昭和59年4月10日発行 四国新聞社
- 『三木町史』 昭和63年3月30日発行 三木町史編集委員会



高尾逆流防止樋門



奈良専二翁の碑



女井間池の由来

ことடன் 築港行き 12月19日(日)

農学部前 築港

12:06 → 12:39

12:26 → 12:59

12:46 → 13:19

男木島往復 2月27日(日)

高松港 男木港

8:00 → 8:40

13:40 ← 13:00



次回のふるさと探訪は・・・

テーマ 水仙街道を男木島灯台まで歩く

とき 平成23年2月27日(日)

9:00～12:00

集合場所 高松港(雌雄島海運フェリー乗場)

講師 妹尾 共子(高松市歴史民俗協会会員)

広報「たかまつ」2月15日号に開催案内を掲載しますので、
ご覧ください。

※天候等により中止の場合のみ文化財課(TEL 839-2660
「午前7時～開始時間まで」)でお知らせします。(電話が通じない場合は、「実施」です。)

「ふるさと探訪」に
参加される皆様へ



※ 参加中は、次のことに充分留意し、
安全で意義のある探訪としましょう。

- 1 交通ルールを守り、交通安全を心がけましょ
う。
(必ず、歩道を歩き、歩道が無いところでは、道
路の端を一行で歩きましょう。)
- 2 無理をせず、体調には十分気をつけましょ
う。
- 3 引率者の指示に従い、整然と行動しましょ
う。
- 4 マナーを守り、他人に迷惑がかからないよう気
をつけましょ
う。
- 5 文化財や自然を大切にしましょ
う。